

波紋

1991 4 第70号

最近のFMSの動向

「F・M・S」とは主に、入社三年未満の者を対象として、一月に一回の割合で勉強会をすることをいいます。

内容としては、リーダーの人が毎月ごとにテーマを決めてその事についていろいろと話し合います。

それについては、講師として上司の方に体験談やいろいろなアドバイスなんかを聞くことが出来るのです。

まだ、社会に出て浅い自分たちにとっては、一月に一回でも貴重な勉強会なので大変プラスアルファになることばかりで勉強になります。

しかし、まだまだそういう事になれていない自分にとっては、いろいろ質問なんかをされるのですが、はっきりとした答えが出せない時もあり、講師の方・テーマを毎月苦勞して決めてもらっているリーダーの方には、「悪いなあ」と思う事もあります。

自分も入社して三年たつてしまつたので、もう少し自覚をもつて、F・M・Sでももっとしっかりと後輩の見本になれるように勉強していきたいと思います。

鳥羽 幸治



交差点

「多民族国家・日本」

私は最近まで、日本人は単一民族で、世界でも類のない国家だと思っていました。

が、ラジオで、外国人が「東京の地下鉄に乗ったが、あまりにも色々な顔・姿に出合う事にびっくりした。日本人は皆、同じ顔をしていると、来日するまで思っていたから」と話をしていました。

洋画を見ていて、フランスの女性も、ドイツの女性も、イタリアの女性も、皆、アメリカ女性に見えてしまう。最初から見ていないと、登場人物の役柄が分らなくなる。皆さん美人だしね。女子プロテニスを見ていても同じです。

確かに日本国は大昔、中国大陸と陸続きの時代もあったし、シベリアから、朝鮮半島から、台湾方面から渡って来た人々が住み付いた事は事実なのだから、色々な顔の人がいても、おかしくはない。又、極東の端まで船や歩いて、歩いて、苦勞して今の日本まで、たどり着いて生活を始めた。当時ここまで生きて来られたという事は、我々の先祖は大変、勇気と情熱と体が丈夫だったんですね。キット。今日、日本の繁栄の源はここにあったかも……。

森 信之

トシ君の一方通行

都知事選挙がおもしろそうですね。都民であつたら真剣に論議するところですね。鈴木さんに向かつて、「お前さんは歳だから辞めなさい」なんて事をいきなり慰労の言葉もかけずに言っちゃうなんて小沢さんて人はすごいですね。そいでまた鈴木さんが若さを証明するのには屈伸をするなんぞはみせてくれるじゃありませんか。そこで自公民推挙でなんとあのNHKの磯村さんが出るじゃありませんか。そいじゃ、俺の方がもっと人気があるという事で「ダーツ」と言いながら何と猪木さんが手をあげたのです。磯村さんが猪木とアリのあの迷勝負を茶番劇と言ったから気に入らないとか、磯村さんの笑顔が気に入らないという理由ですね。そこでここで登場したのが、国会議員の奥様がアメリカから手をあげたのです。目立ちたがりやのとにかく目立ちたがりやを隠さずに私ほとにかく目立ちたいという理由であろうと思います。久し振りに面白い選挙になります。とにかくここまで都政政策を訴えずに、屈伸さんとニタニタさんと「ダーツ」と目立ちたがりやと、それともう2人誰だつたっけ。これほど都民不在ショーを演じていただけのショーマン達に拍手。

その後3月12日に猪木さんは「ダーツ」と言わずに、「モゴモゴ」訳の分からない理由でリングより降りました。

木村英利

喜怒哀楽

喜んだり、怒ったり、哀しんだり、楽しんだり。

家族がひとつ屋根の下にいれば、当然起こるごく自然なことなんです。

最近子供も、一人前の事を言うような年ごろになって来ました。女房の言う事も、素直に聞こうとしないのが腹立ようです。

もつと父親の厳しさを示してほしい……。

女房に言わせれば、子供に少し甘過ぎるそうです。当然の事、親の責任で仕付けしなればなりません。必要の時は厳しく叱ったりする厳格な態度をとり、後でのスキンシップも必要だと思ひ今年の初より、朝食の時間を皆んなそろって食事をしながら、話してもと思ひ、少々つらくても早起をして、皆んなでワイワイと楽しんでいきます。

こんなささいなことで、子供達にとって良い習慣であればと思います。家族皆んなで暮す楽しさを大切に。



横山敏秋

暮らしのエッセイ

潜水艦

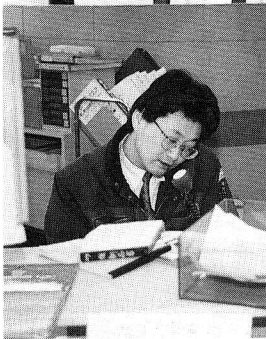
今年になって図書館へ行く機会が多くなりまして、最近読書しているのが「潜水艦氣質よもや物語」で日本の潜水艦の内容を詳細に書いてありました。潜水艦といえどドイツの「Uボート」が有名ですが日本の潜水艦もヨーロッパからアメリカまで全世界を航海して戦っていました。潜水艦は影の「忍者」でもあります。各クラスを伊号、呂号、波号に大別してあり、特に伊号クラスは「Uボート」より大きい位で特に有名なのは：

- 1、酸素魚雷（航跡にアフがたたないし長時間航続距離がある。）
- 2、潜水艦自動懸吊装置です。

特にドイツはこの2点がほしかったそうです。この2点は世界でも日本しかないものだと思います。ドイツは「レーダー」が優秀で、イギリスでは「ソナー」「対潜兵器」が優秀でした。又、日本では人間魚雷「回天」というのがありまして、これは飛行機で言えば「神風」で体当りの兵器です。一人一艦を葬るという気の狂った兵器です。真珠湾攻撃で有名な山本五十六海軍大將は「人間の命が大切」ということでのこの案は許可しませんでした。戦争は色々気が狂うことを考えるものですね。イラク戦争も大変でした。戦争は永遠になくならないのかしら。戦争反対。

高橋一友

孫田さん
12年間、どうも
お疲れ様でした。



森松学校
91.3.20
卒業

体に気を付けて
頑張ってください。
モーリンググループ同



孫田係長
12年間、ご苦勞様でした。
代表しまして、上司の方より『贈る言葉』を
頂きました。
今後共、がんばってください。

孫田君に贈る言葉

孫田君、モーリン・スクール卒業おめでとう。12年前、君の事で今は亡き父上と、要町事務所で話しをした時を思い出します。

「息子にオートバイを買ってやったヨ」と、楽しそうに語ってみえた……。

結婚式じゃないけど、世間の荒波を乗り越え、孫田ビニールさんをますます発展される事を祈ってます。君は大器晩成型の人間だから、持ち味を十分生かし頑張ってください。

森 信之

何にも、言うことはありません。私が、12年間勉強させてもらったと思つてます。

光田 昭男

「贈る言葉」を載せるという事は前代未聞の事であります。これは孫田君の人柄の良さか、それとも社内報のネタがないせいなのか、それとも森松OBとして大成功して「私はこうして成功した」という特別寄稿をお願いしたいと思つています。

牧野 光昌

学校では、お互い何も勉強しなかったが、森松で覚えた事はいつまでも忘れず、また今後も勉強していつまでもほしい。そして孫田ビニールと共に成長していくことを期待します。

山口 隆弘

退社挨拶

昭和54年3月2日に森松に入社して早12年が過ぎ3月20日に退社することになり、家業の孫田ビニールを継ぐことになりました。この12年間、得意先や仕入先の皆様には大変御世話になり、ありがとうございました。

12年間の思い出はいろいろ有りますが、森松に入社した頃の感想をいいますと、朝7時20分には全員会社において、夜は10時〜11時頃まで、遅いと12時すぎまで残業したものです。私も入社その日から残業で、7月末頃に初めて日が明るい時に帰れた時は本当に帰っていいのか疑ったものです。

また、皆もえらい時もありましたが「よしやるぞ」の一言で誰も文句を言わず一致団結してやってきたし、そのパワーがあつたからこそ森松が伸びてきたと思います。

森松のモットーの中に「今、ここ、私」があります。自分がどうすべきか、他人にどうすべきか、仕事に対してもどうすれば良いか、いろんな意味があると思います。この「今、ここ、私」を忘れず、もっと勉強をしていかなければならないと思つたので、これからも御指導の程よろしく御願ひ致します。

森社長をはじめ、上司の方々そして社員の皆さん、パートさん、本当に長い間ありがとうございました。

孫田 邦彦

今月の社内行事

- 4月1日 新入社員入社式
- 4日 工場見学(新人)
- 6日 新入社員歓迎会
17時～
- 9日 Y・M・S
18時30分～4F
担当 田井村・大橋
- 11日 電話応対一日講座
- 12日 名古屋パックス 吹上
- 13日 F・M・S
新入社員ゲーム研修
担当 西田・牧野部長
- 19日 営業部長会
7時30分～8時20分
- 26日 経営会議
18時～ 4F
- 29日 みどりの日

『企業を考える』

昔から、「寄らば大樹の陰」と言われています。誰でも、安全で大きな物に側える願望があると思います。特に就職に関して、小会社より、大会社を選びたがり、あこがれる人が多い、無難であたりまえの気持です。

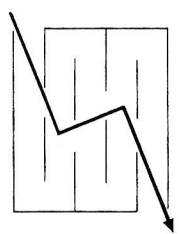
しかし激動の現在は、大手企業でも併合、縮小、倒産があり、従来と様相が変化している。モーリンも時代の流れに乗って発展して行かねばならない。その為に、全員が、会社の将来を考え、話し合いの場を持ち、組織を強化し、自分自身を成長させ、信頼関係を確立させて、自分は、この仕事が大好きだと思ふようになって欲しい。

こんな社員が多くなれば、中小企業でも繁栄するすばらしい会社になるでしょう。

森 富一



クイズコーナー [答] 2回



編集後記

春がやって来ました。日中は暖かく心地好い毎日ですが、花粉症の季節でもあつて社内でも苦しんでいる人が少数います。

新入社員も入社しまして、こんな私も先輩になつたわけで、いままでのようにあまえてばかりはいられません。

途中入社の方も沢山入りまして、森松も賑やかになってきました。

みんなやる気マンマンでSU50もますます向上していくと思います。

大岩 美花

編集発行者
森松株式会社

発行責任者 二
伊 東 郁
平成3年4月1日
第70号